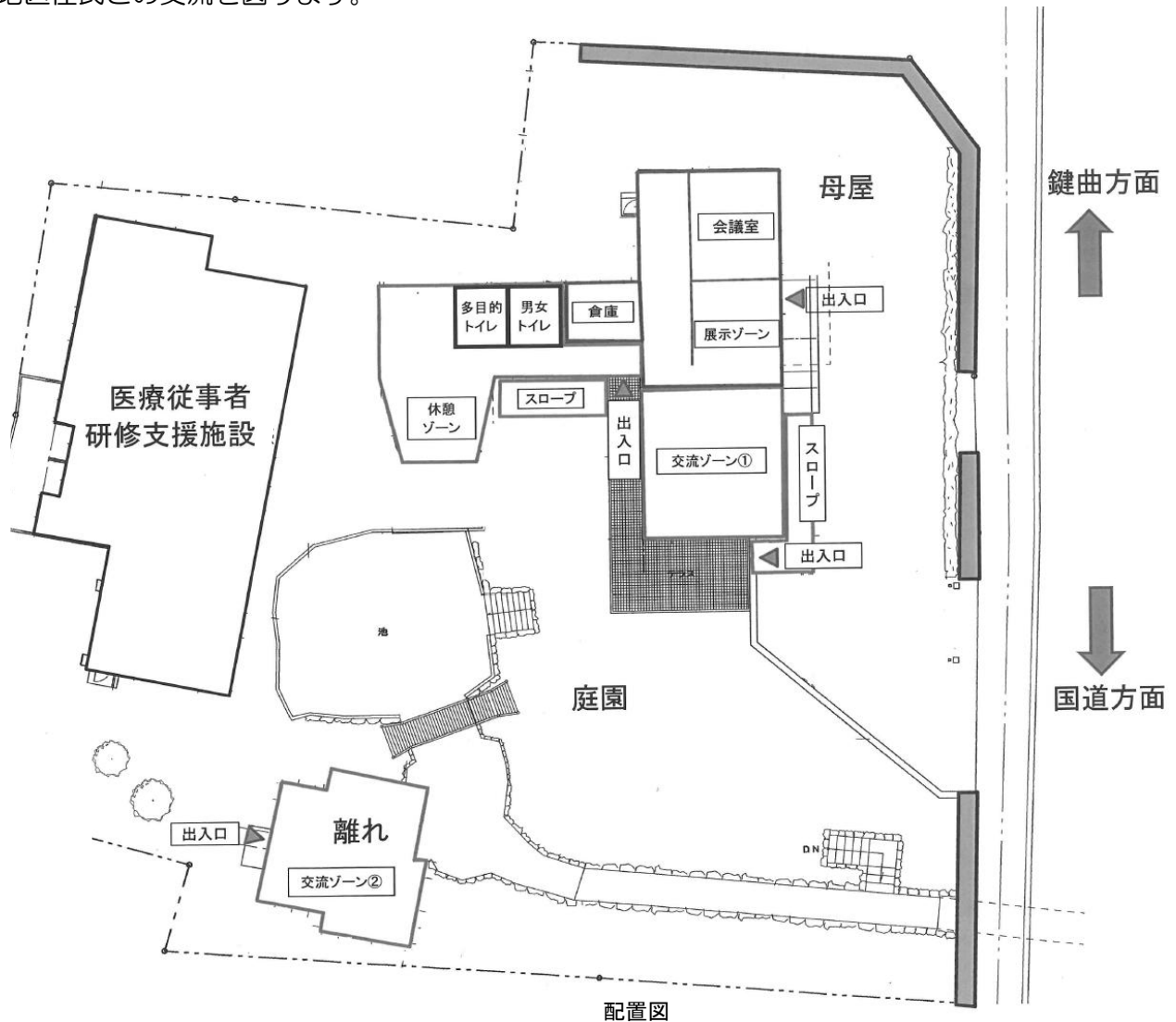


◆ 平安古かいまがり交流館施設紹介

平安古かいまがり交流館は、萩まちじゅう博物館のサテライト（まちじゅうの展示室）として活用するとともに、江戸時代の武家屋敷の面影を伝える庭園を公開し、平安古地区を訪れる方と地区住民との交流を図ります。



施設概要

- ・ 交流ゾーン①（旧保養所母屋の一部）、交流ゾーン②（離れ）
- ・ 展示ゾーン、会議室
- ・ 休憩ゾーン（庭園展望室）
- ・ 多目的トイレ、一般トイレ
- ・ 庭園

開館時間 午前9時～午後5時

休館日 毎週水曜日、年末年始

駐車場 おもいやり駐車場1台、一般駐車場2台程度（予定）

◆ 平安古重要伝統的建造物群保存地区について

東西約150m、南北約300m(面積4ha)の範囲で藩政期の地割りをよく留めており、毛利一門の右田毛利家(1万6000石余、現在の田中別邸)の下屋敷、寄組児玉家(3084石)、坪井九右衛門(157石)旧宅などの屋敷跡や鍵曲などが今も往時の面影を残しています。また、明治期に士族授産のために行われた夏みかん栽培発生の地でもあります。



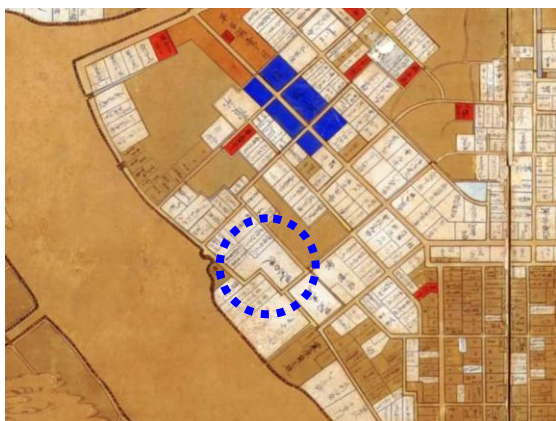
平安古鍵曲



旧田中別邸

◆ 旧児玉家庭園について

幕末の絵図をみると、この施設の場所は児玉三郎右衛門の屋敷地にあたります。児玉家は、萩藩の寄組で、当時は現在の平安古鍵曲の方を正面とする広大な屋敷地を構えていました。庭園はこの屋敷地の奥の方にあり、橋本川から水を引入れる水路と、笠山石の護岸と舟付場が設けられた池、この池に架かる石橋などが周囲の樹木などとともによく残されています。このような庭園は、舟入式池泉庭園(ふないりしき ちせんていえん)と呼ばれ、かつては川沿いに数多くつくられた武家屋敷の庭園の形式をよく残した貴重な遺構と言えます。



萩城下町絵図(部分)



旧児玉家庭園